

第3回新城市福祉従事者支援施策推進会議録

日 時 令和7年3月18日(火)
午後6時～午後8時
場 所 災害対策本部室2

議題

1 令和7年度新城市福祉従事者支援施策推進会議の委員、座長及び副座長について

・次年度、推進会議の構成員となる意思について、確認したところ、澤田さんと村川さんから辞退との回答をいただいた。澤田さんは、事業者、村川さんは福祉従事者ですので、新たに事業者と福祉従事者に入ってもらえるのかなど、次年度の構成員について、また、座長、副座長について協議していただきたい。

・座長より鳳寿会(くるみ荘)の鈴木孝知さんとサマリアの家施設長の熊谷ケイスケさんを推薦。鈴木さんは、介護の事業者として、特養などセーフティネットを支えている事業者。熊谷さんは、RUN伴など認知症の啓発をずっとやっている。若手で雇われ施設長だが、事業者というより従事者側面が強い。⇒異議なし。

・事務局から本人に連絡していただきたい。

・座長について、7年度は引き続き長坂さん、副座長は、座長から指名のあった社協の柿原さんに決定した。

・社協開催の「福祉ふれあい広場」の打合せに出席するのは、長坂さん、加藤さん、山本さんに決定。加藤さんは、本日結成のため受けてくれるか確認する。

・学校教育課長については、新しく学校教育課長なった人をお願いする。また、健康福祉部長についても新しい健康福祉部長になる。

2 令和7年度第1回福祉従事者支援施策推進会議において市長に報告する内容について、令和7年度の会議日程と議題について

・市長に報告する内容について、令和6年度の福祉従事者支援施策推進会議の事業報告や評価検証と推進会議の事業計画を考えているがいかがか。

・取り回しは座長が行い、副座長が報告をする。

・報告というと先に命令があって、こういうふうになりましたという報告をイメージする。報告を受けて、こういうふうに行っていきましょうという話をいただくと7年度がスタートできる。

・令和5年度、令和4年度について担当から市長に報告しているのならば、それと同様にすればいい。⇒これまで実績を市長に報告したことはない。

・4年度5年度6年度とまとめて、報告したほうがいいのか。

・この推進会議は条例に書かれていることが事業として実施されてどうだったかを評価検証するのが目的。

・4年度、5年度をまとめて、こんなことをして6年度に協議をした、4年度、5年度、6年度は7年度につなぐためのものとなっていると話ができると良い。

・6年度は、これまでやってきたことに対して、これでいいのかという疑問があり、それで1年間はこれまでを反省しながら今後のことを考える場を作った。

・そこで得たものは何があったかをまとめて、7年度からは、こういうふうにしたいというように持っていけると良い。

・他の市にない、新城市の独自の条例を作った。施策を進めるにあたって、市の代表として市長に施策推進について、どう考えているのかを聞けるといい。そして条例がやっぱり大切なものであるとするならば、福祉関係だけではなく全体の課にこの意義をもっと浸透させないといけない。

・介護士さんの数がかなり減ったというニュースを見た。今後サービスの提供に支障が出てくるかもしれない。今現在、市内に事業者が幾つあって、どれだけの人が働いていて、どの分野がどれだけ足りないかという問題を提示した上で、市長に新城市をどういうふうにしていきたいかを聞いた方がいいと思う。

・この会議が迷走したのは、お互いの立ち位置がはっきりしていなかったのではないと思う。市の条例なので市が果たすべき責任、役割が何なのかもよくわからないままになっている。福祉従事者の構成メンバーも、福祉従事者の人たちの福利厚生をやっているのか、また、人がいないということに対する危機的な状況を伝えるのか、行政がこの条例に対して果たすべき役割は何なのか、その辺が何となく、あやふやだから話が行ったり来たり迷走している気がする。市長に会って話をするのなら、市長として、この条例に対する責任みたいなことを明確に言ってもらい、お互いがそれを確認し合う形になると思う。

・評価・検証の報告は、4年度、5年度、6年度で、それぞれやったこと報告する形でいい。

・過去の実績については、年度ごとにスケジューリングした資料に検証的なものを載せていこうと思う。

・リニューアル会議において、加藤久美子さんがホワイトボードに書いて見える化してくれた。あれは6年度の財産だと思う。今後どうするか7年度に話し合い、8年度に実行していくことになると思う。

・報告は10分程度で、残り20分は市長と委員との意見交換のようなやりとりができるといいと思っている。

・市長の意見を聞くというより、条例ができてこうやってきた。今年度の会議は、どうしてリニューアル会議という形になったのか、そこでどんな話がされたのか、それを踏まえて来年度、どう進めていくのかといったところを市長に聞いてもらおうと思っている。

・条例ができた頃と比べ、現状はこんなに変わっているというところを、わかってもらうところが必要だと思う。

・市長が5分ぐらい挨拶してもらったあと、この会議でやってきたことに基づいて来年度こう考えてますという報告。そのあと、10分、20分ぐらいで意見交換ができるといい。

・7年度は何をやるのか、といった計画を伝え、意見をもらう。

・7年度の予算については、「キラリしんしろ福祉賞」に関する消耗品や会場使用料などと、委員の会議出席に関する報償費がとってある。

・会議は8月から9月に1回と、11月か12月に1回を考えている。

7年度は「キラリしんしろ福祉賞」を福祉ふれあい広場でどうやっていくか、また、お金をかけず福祉ふれあい広場でやれるものがあれば、そういうものを具体化していく。

・市長に報告する内容について、やってきたことだけではなく、これからどうするというのも報告したほうがいいと思う。

・人材育成が一番の課題だと認識しているが、労働条件について改善をしていくとか、研修会を開催し資質向上、スキルアップして知力を高めるとか、小中高の時期から、福祉との触れ合いを増やすため学校側にも協力をいただくなど柱を何本か考えて人材育成を図っていくべきと考える。

・リニューアル会議でホワイトボードに書いたものを見ると、組織のあり方、会議のあり方について意見出たが、それをどうするかということは詰めれてないので、会議の中で詰めれるといいと思っている。

・現場では、人材不足で困っており、何とかしなきゃいけないと思うけれども、この程度の予算ではできない。だからこの会議には期待してないのではないか。その程度の期待なのか、本当に市がやる気があるのかと思ってしまう。

本腰を入れてやらなきゃいけないのではないかと思いがあがるが、予算の中で最大限にやるしかないと思っている。

・市がつけた予算だが、金額が市の期待度ではない。苦しい財政の中での予算付けだが、市のトップ機関の総意ではないと思う。

・これらの施策は、従事者のアンケートに基づいた施策で、これをやっていくというイメージを持っているが、時代の変化で課題について変わってきている。今ある課題に対する施策を考えた方が、従事者にとってはいいのではないかと思うが、条例に載っている施策にガチガチに縛られていくのがいいのだろうか疑問を持つ。

・条例の逐条解説にあった施策について残すものと残さないもの考えた。逐条解説にこだわっていくことはもう必要ない。自分だけの意見を言えば、条例から逐条解説を外したほうがいいと思う。この条例は理念条例でしかないと思っている。施策は作っていけばいいと思うし、やってみて、効果ないと思えばやめればいいと思う。

・逐条解説の施策は、発言で出たものをすべて拾ったもので議論をして、採用したわけではない。それから、6年度に話し合ったことも、皆さんで採決を取ったわけでもないの、いいと思ってもあれば、要らないという人もいると思う。そうすると、6年度に話し合ってきたことは、これに決めますというのがなかなかなかった。言いたいことを言ったというところ。こういう予定で8年度の政策を考えていくと、8年度に入ったらまた1から話し合いの場ができてしまう気がする。ある程度、7年度にしっかり話し合っておかないと、8年度に入りすぐにスタートという形にならない気がする。

・今、一番大事なのは福祉従事者の人材不足を解消するという。人材不足を解消し流出を食い止めようという話の中で、例えば公設の人材バンクみたいなものができたらいいという話も出たと思う。また、グループホームが立ち行かなくなっているとか、ヘルパーが不足しているという現場が1つでも2つでも解決に向け役立てば、この会議の意味合いが非常に強くなると思う。

・第1回目の4月23日に、すぐに役立つようなものが必要と市長に言ってもらい、進め方を考

え、やってみようという流れになるといい。

- ・予算を可決したのは議員なので、この会議を見ていただくといいと思う。

⇒議員に見てもらおうというのはいいと思う。来てくれる議員がいるかは別疑問だが、福祉部門の委員会があるので、声をかけることならできると思う。

・来年度の予算というのは、私たちが提案をしていないから少なくなったと思う。来年度は早々に8年度の施策についての予算立てをしていかなければ、また予算がない状態になってしまう。

- ・会議の回数が少ない分、メールでやりとりして意見交換していく必要がある

・予算が少なくなったのは、このメンバーの責任ではないと思う。その辺の実情は、市長にいう必要はない。

- ・財政的に厳しい新城市では、国や県から予算を取ってくる必要がある。

⇒第1回の福祉フェスでは、「元気な愛知の市町村づくり補助金」を活用した。

・市長に来てもらうわけだが、何々について市長としてお考えをいただきたいといった提示ができる私たちが聞きたい内容が聞けると思う。また、市長に深入りしたところの知識があるとも思えないし、私たちが市長に何を期待するのかもと定まっていないと思う。

・市長にやる気がないように見えるから来て欲しいと思っている。市長から「すごく大事なことから、本当にやる気を持ってやってください」と言ってもらいたい。

・この推進会議は、具体的な政策の提言を行政サイドにしていくというのが大きな役割だと思っている。社会福祉法人連絡協議会で、重層的体制整備事業について、少し発想を変えてくださいという提案を行っている。

・この会議は、福祉従事者が、現在、新城で困っていることに対し、それを支援するための手だてを考える会議だと思っている。では、どれなら支援できるかを考えたときに、高校生でも資格を取らなくてもアルバイト感覚で、障害のある人を病院や動物園などに連れて行くということはあるし、そんなことでも政策による支援になるのではないかと考えていた。

・来年度の1回目と2回目で話を詰めて、何か1つは予算化したいと思っている。予算がなくてもできることを社協と話し合いながら進めていきたいと思う。

4 その他

・日本福祉大学の東海キャンパスで開催された介拓奨学生プログラムの開拓アワードに参加してきた。6人の高校生の子たちが発表して、とても感動的だった。マスコミも来ていた。会場には100人ほどで高校生の親御さんや福祉関係者が集まっていた。表彰終了後、フォーラムがあり毛受さんが司会で、いきなり話を振られたので、新城の条例のことで、黄柳野高校と一緒に新城版ができないか話し合っていることを報告しておいた。

- ・次回は4月23日、新しい委員さんを入れて事務局からメールを配信していただきたい。

8月9月11月12月3月の会議日程を押さえていただきたい。

以上